

令和元年度「びわ湖の日」の取組について

1 これまでの「びわ湖の日」の取組状況について

びわ湖の日は、その概ね前後1週間に県下全域で10万人以上が環境美化活動を行うなど、琵琶湖への思いをみんなで共有し、その総合保全に取り組む象徴的な日となっている。

びわ湖の日30周年(平成23年度)を契機に、「琵琶湖をきれいにする」に加えて、「豊かな琵琶湖を取り戻す」、「琵琶湖にもっと関わる」をびわ湖の日の取組の3本柱とし、市町をはじめ民間企業・大学等と連携した取組を進めている。

【主な取組】

琵琶湖をきれいにしよう

▶ びわ湖を美しくする運動

豊かな琵琶湖を取り戻そう

▶ 侵略的外来水生植物の駆除
▶ 外来魚駆除釣り大会

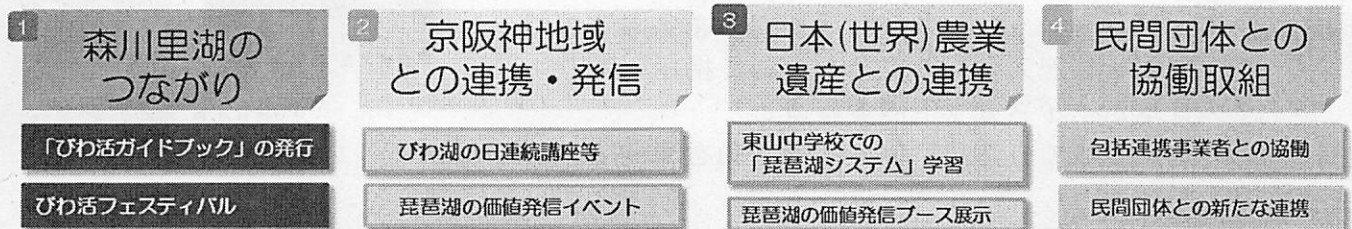
琵琶湖にもっと関わろう

▶ 琵琶湖の価値やびわ湖の日の意義を発信「広める」
▶ 身近なこと「食べる」から琵琶湖に関心をもつ企画
▶ 琵琶湖や暮らしとの関わりを「学ぶ」企画

2 令和元年度「びわ湖の日」の取組について

県民のライフスタイルは多様化し、琵琶湖との関わり方やその時間は一人ひとり異なる。誰もが自分に合った方法で、より多くの方に琵琶湖に関わっていただけるよう、7月1日「びわ湖の日」から8月11日「山の日」までを琵琶湖に関わる重点期間とし、「この夏!びわ活!」をキャッチフレーズに、多様な主体と連携して琵琶湖に関わる体験イベント、活動等にいざなうための情報を一体的かつ効果的に発信をする。

【重点ポイント】



(補足)「びわ活」とは、琵琶湖を守る、琵琶湖と暮らす、琵琶湖と親しむ、といった琵琶湖と関わる様々な取組や活動をいいます。

(1) 森川里湖を学び、行動へ びわ活ガイドブック/フェスティバル

○情報誌「この夏!びわ活!ガイドブック」の発行(6月21日)…… 別冊参照

- ・自然体験イベント等(約100件)を盛り込んだ情報誌を12.5万部発行。
- ・県内小学校(約9万人)に配付するほか、図書館、琵琶湖博物館、大型商業施設等で配架。
- ・森川里湖のつながり、SDGs、多言語で琵琶湖を学ぶ内容や、家庭での実践に使えるよう県産食材のレシピ、寄附付き商品。
- ・関連イベントにおける緑の募金箱設置等の検討。



○びわ活フェスティバル (6月30日 ビバシティ彦根)

- ・「びわ活」のキックオフとして、「びわ湖の日」の認知度向上およびより多くの方に琵琶湖に関わっていただくためイベントを開催。

※同日、平和堂による琵琶湖産鮎のつかみ取り等の連携企画等も開催

(2) 京阪神地域と連携した連続講座/イベント

○京都市・大学との連携

- ・琵琶湖疏水記念館（京都市）において「びわ湖の日」特別展示（7月2日～31日）
- ・立命館大学連続講座（全3回）において、疏水記念館学芸員が講師となり、「琵琶湖疏水の歴史と意義」について講演（第1回7月14日）
- ・龍谷大学梅田キャンパスにおいて、琵琶湖にまつわるテーマで連続講座を開講（秋以降）

○琵琶湖の価値発信イベント (9月16日 イオンモール桂川<京都市>)

- ・琵琶湖・淀川流域全体で琵琶湖を守る機運を高めるため、琵琶湖の多様な価値を発信。近江米新米PRと連携して実施。

(3) 日本（世界）農業遺産と連携した琵琶湖発信

- ・私立東山中学校<京都市>での連続講座（10月～12月3回）
- ・琵琶湖の価値発信ブース展示（6月29日～7月4日 ビバシティ彦根）

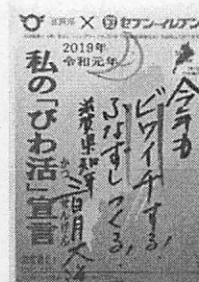
(4) 企業・民間団体による新規「びわ湖の日」企画

- ・平和堂：「滋賀めし」コンテストメニューの商品化（6月27日～7月24日）
- ・ローソン：近江米を使ったおにぎりの発売（7月1日～15日）
- ・セブン-イレブン：「びわ活」宣言を県内各店で募集し、記入された宣言を店舗で掲示（7月中）
- ・日本ボーイスカウト滋賀連盟：
県全域で自然観察等の体験活動を展開（8月4日）



▲ びわ湖の日記念商品
記者発表（6月11日）

びわ活宣言
イメージ ▶



■ その他広報・啓発について

○ 「びわ湖の日」ポスターの作成

- ・成安造形大学との連携で啓発ポスターを1,800部作成。
- ・県内学校（小中高）・大学、コンビニ、大型商業施設等に掲出依頼。

○ 多様なメディア発信

- ・e-radioでのびわ活広報CM（6月25日～8月11日の間）
- ・京阪電車全線での車両吊り広告（6月28日～7月1日 4日間）